

大阪大学の欧州拠点の活動-with大阪・関西万博/ EXPO 2025



海外交流

松野 健治*、大林 小織**

Activities of The University of Osaka European Center for Academic Initiatives
- with EXPO 2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN

1. はじめに

日本の大学が欧州の大学と連携し、教育・研究・人材育成の分野で国際交流を推進する重要性は、かつてないほど高まっている。その背景には、いくつかの要因がある。第一に、世界規模で複雑化・多様化する課題に対しては、一国のみでの対応が困難であり、異なる価値観や専門性を有する機関同士の連携が不可欠である。気候変動、パンデミック、エネルギー転換、デジタル化といった地球規模の課題に取り組むためには、多国間の視点を取り入れた研究と教育の協働が求められる。第二に、教育面では、異なる文化的・社会的背景を持つ学生や研究者の交流を通じて、多様性を理解し、国際的に協働できる人材の育成が可能となる。これは、国内外の企業や国際機関が求める人材像にも合致しており、日本の大学にとって教育の質の向上と社会的責務の遂行にもつながる。第三に、欧州の大学との連携は、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値を共有する基盤となり、国際社会における信頼と協力関係の構築にも戦略的に重要である。特に、現在の国際秩

序が揺らぐ中においては、こうした価値観を共有する地域との連携は、日本の立場や理念を国際的に発信する手段となり得る。以上の理由から、大阪大学を含む日本の大学が、欧州の大学と連携し、教育・研究・人材育成を軸に国際交流を深化させることは、学術的意義にとどまらず、日本全体の国際的存在感を高め、持続可能な社会の構築に貢献するうえでも極めて重要な戦略である。

特に、2025年に大阪・関西で開催された「大阪・関西万博 (EXPO 2025)」は、大阪大学が世界とつながり、未来社会を共に創造するための重要な機会となった。大阪大学からも数多くの技術や知見が発信され、学生にとっては国際社会を意識しながら社会課題に取り組む貴重な場となった。欧州の大学は、先進医療、環境・エネルギー、生命科学、AI倫理などの分野で先進的な知見と研究基盤を有しており、大阪大学との共同研究は、学術的価値に加え、社会課題の解決に向けた国際的な知の創出にもつながった。また、EUの研究資金や学術ネットワークを活用することで、両者の協働体制は一層強化され、万博を契機とした長期的な連携枠組みの構築が進められている。大阪大学が欧州の大学との連携を強化し、EXPO 2025を通じて国際交流を積極的に展開したことは、教育力・研究力の向上にとどまらず、国際社会における責任ある主体としての役割を果たすうえでも極めて意義深い取り組みであった。

大阪大学の欧州での活動は、グローニンゲン大学にある欧州拠点を拠り所として実施されている。また、大阪大学の大学間国際交流では、「グローバルナレッジパートナー (GKP)」も重要な役割を果たしている。GKPとは、大阪大学が世界の有力大学と戦略的パートナーシップを結び、「知 (ナレッジ)」を協働して創出し、地球規模の社会課題の解決を目指す枠組みである。パートナー大学との間では、分



* kenji MATSUNO

1960年7月生まれ
早稲田大学・理工学研究科博士後期課程
修了 (1990年)
現在、大阪大学 国際機構 欧州拠点長
理学博士
TEL: 06-6850-5804
FAX: 06-6850-5805
E-mail: kmatsuno@bio.sci.osaka-u.ac.jp



** Saori OBAYASHI

1968年7月生まれ
関西学院大学経営戦略研究科博士課程後
期課程単位取得満期退学 (2022年)
現在、大阪大学 国際機構 国際企画・DX推
進本部 准教授 修士 (教育学)
TEL: 06-6105-5886
E-mail: saori_obayashi.cgin@osaka-u.ac.jp



図表1 熊ノ郷淳総長、竹村景子理事、島田昌一・適塾記念センター長らが出迎え、オランダ王国ウィレム＝アレクサンダー国王（左から5人目）が適塾をご訪問（2025年5月22日）

野横断型の国際共同研究プロジェクト、高度人材の育成、若手研究者・学生の受け入れ・派遣など、組織レベルでの連携を強化している。本稿では、特にEXPO 2025での交流を中心に、大阪大学の欧州拠点の活動とGKP大学（マンチェスター大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、ピーレフェルト大学を例とし）との取り組みについて紹介する。

2. 欧州拠点とグローニンゲン大学

本学の欧州拠点は、オランダ北東部に位置するグローニンゲン大学内に2005年に設置され、今年で20周年を迎える。オランダはEXPO 2025において「コモングラウンド」というコンセプトでパビリオンを出展し、「ともに分かち合い、新しい価値を共に生み出すこと」をテーマに、健全で幸せな社会の構築を目指すメッセージを発信した。2025年は、日蘭交流425周年という節目の年でもあった。5月にはオランダ国王が万博を視察のため来阪され、その際に大阪大学の適塾センターをご訪問いただいた（図1）。8月にはオランダパビリオンで日蘭交流イベントが開催され、緒方洪庵像が展示されるとともに、本学およびグローニンゲン大学の学生がシンポジウムに参加した。

EXPO 2025は、グローニンゲン大学の学生が来

阪する機会を大きく増やした。8月には20名の学生が基礎工学研究科を訪問し、ケミカルエンジニアリングのラボで合同受け入れが行われた。10月には、同パビリオンでのイベントに参加した学生が、情報学研究科のコンピュータービジョン講座を訪れ、いくつかの学生グループが本学キャンパスで交流を深めた（図2・3）。

3. マンチェスター大学

英国・マンチェスター市は大阪市と姉妹都市関係にある。このような都市間の関係も後押しとなり、大阪大学とマンチェスター大学は2023年12月に戦略的パートナーシップ協定を締結した。マンチェスター大学は、2004年にマンチェスター・ビクトリア大学とマンチェスター工科大学が合併して現在の形となった。産業革命を牽引した都市に位置する大学として、現代においても多くのイノベーションを創出している。

EXPO 2025の英国パビリオンでは、「ともに未来をつくろう」をコンセプトに、英国のイノベーションの過去・現在・未来が紹介された。マンチェスター大学は、原子物理学の父ラザフォード教授やグラフェン研究のアンдре・ガイム教授、コンスタンチン・ノボセロフ教授など、これまでに25名のノ



図表2 グローニンゲン大学 Chemical Engineering のインターンシップ学生団が基礎工学部化学応用科学科を訪問し、水垣教授、西山教授、馬越教授らが歓迎、2025年8月8日



図表3 2025年10月8日 情報科学研究科ビジュアルイメージ講座での大倉准教授、篠田特任助教とラボの学生とともに。

ーベル賞受賞者を輩出しており、本学との間でもこれらの領域で研究連携が進められている。

また、2024年度からは共同でシードファンドを設置し、これまで5件の共同研究プロジェクトが採択されている。2025年6月には、グレーター・マンチェスター市の市長が万博で来阪し、筆者らも接見する機会を得た。マンチェスター市は、産業構造転換による景気後退を乗り越え、現在では「クリエイティブ・シティ」として都市再生に成功し、多くの学生を惹きつけている。本学欧州拠点においても、同大学を短期留学先として調整が進められている。

4. ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL)

UCLとは2019年に戦略的パートナーシップを締結し、教育・研究の国際的連携を推進している。両大学は、歴史的な関係を背景に、大学としての理念を共有し、特に社会課題への取り組みを活動の核としている。具体的には、認知症研究や脳科学分野において医学系研究科を中心とした領域横断型の連携が進められており、若手研究人材の協働育成にも注力している。

また、共同でシードファンドを設置し、2019年度から2025年度までに28件の共同研究プロジェクトを支援している。さらに、2025年8月には、UCLのSchool of Managementと連携し、本学学生向けのオンデマンド・ビデオレクチャーシリーズの提供が始まるなど、次世代のグローバルリーダー育成を視野に入れた活動も展開されている。

5. ビーレフェルト大学

ドイツのビーレフェルト大学とは、2023年7月に戦略的パートナーシップを締結した。2023年には薬学研究科が同大学と博士課程のダブルディグリー協定を結び、2024年には1名の学生が同大学へ留学した。また、生物工学国際交流センターも同大学と緊密な関係を構築している。2025年8月には、

ピーレフェルト大学長をはじめとする代表団が本学を訪問し、本学のダイバーシティ&インクルージョン (D&I) センターを視察した。これは、ピーレフェルト大学が加盟する欧州の大学連携プロジェクト「European Universities alliances」において、同大学が NEOLAiA (欧州 9 か国の大学によるコンソーシアム) に参加し、特に D&I の推進を担っていることが背景にある。NEOLAiA はその活動において 3 つの柱 (ピラー) を掲げており、その一つが D&I の推進である。ピーレフェルト大学は、この分野で主導的役割を果たしている。一方、本学の D&I センターも国内において同様の役割を担っており、今回の訪問では、D&I 領域における連携の可能性について意見交換が行われた。

このように、両大学の連携は学術分野にとどまらず、大学の環境づくりや制度設計など、より包括的なテーマにまで広がっており、今後のさらなる発展が期待される。

6. 展望

EXPO 2025 への参加を契機として本学を訪れた欧州の大学を中心に、現在の交流の取り組みを紹介した。大阪大学の欧州拠点は、今後も欧州の有力大学と戦略的連携を深化させ、教育・研究・人材育成の国際化を加速させていく計画である。特に、共同研究や学生・教員の交流をさらに拡充し、欧州の研究資金の獲得や他地域との多国間連携も視野に入れながら、持続可能な国際協働体制の構築を進めていくことが重要である。

大阪・関西万博という世界的イベントを契機に生まれた交流や信頼関係を一過性のものとせず、今後の発展につなげていくためには、これまでに構築された連携基盤を活用し、大学のミッションに即した継続的かつ戦略的な取り組みが求められる。本学の欧州拠点は、今後も国際社会における「知」のハブとしての役割を果たし、グローバルな課題に対する先導的な貢献を目指して活動を続けていく。

